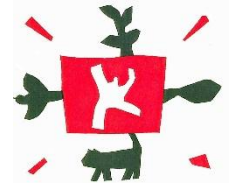


共同通信



2026 年 7 月 26 日 358 号 (568 号)

日本基督教団 西宮公同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町 10-22

TEL 0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email koudou@gamma.ocn.ne.jp

<http://koudou.jp/> 振替 01170-3-4901

To tell the story 257

説教「この大地は私たちのものである」

ルカによる福音書第 6 章 36～42 節

「するとその時（招かれたイエスがパリサイ人の家に入って食卓の席につかれた）、その町で罪の女であったもの」と書いている、ルカによる福音書の物語りは、「さり気なく」ではなく、一つの事件（スキャンダル）ではあったのです。

起こっていたのは、「罪の女」が「香油が入れてある石膏のつぼを持ってきて、泣きながら、イエスのうしろでその足もとに寄り、まず涙でイエスの足をぬらし、自分の髪の毛でぬぐい、そしてその足に接吻して香油を塗った」事件（スキャンダル）です。イエスはといえば、それらの事が「事件」（スキャンダル）であることを、百も承知でした。でしたから、イエスが「私の足に接吻してやまなかった」と評価し、「この女は多くを愛したから、その多くの罪はゆるされた」と、その社会が一般的に「罪」としていることさえ否定してしまいます。

いったいそれは、「何だったのか」について、言及しているのが、ハンス・キュンクの「イエス」の 4 章・連帯の項です。

「巷で知られている罪の女が、きわめて型破りな敬愛を示した物語がある。彼女はおそらく娼婦であり、黙って彼の足に香油をぬった」。ヨハネによる福音書でも類似の記述があります。「…律法学者たちやパリサイ人たちが、姦淫をしているときにつかまえられた女をひっぱってきて、中に立たせた」「モーセの律法の中で、こういう女を石で打ち殺せと命じているが、…あなたはどのようにする」と、イエスは問いつめられます。ルカ、ヨハネに共通するのは、そうしたことは百も承知で、更に、「罪は許された」と言い切っているのがイエスです。

これが、イエスが、この人の生きた社会、社会の決まり事に対して取った、態

度、向いあいかたです。

「…イエスは社会の周辺者、追放された者、宗教的に排除された者、差別されている者、下層の者と付き合い、彼らと親しくなった。イエスは、彼らを単純に受け入れた。彼はあらゆる人間に向って愛が開かれていることを説教するだけでなく、それを実践する」(ハンス・キュンク「イエス」)。

起こしていたのはその社会において異質な者たち、「異質な他者との共生」です。この「異質な他者との共生」に言及しているのが、内田樹の「国民国家と文明」という短い文章です。(「凱風快晴、ときどきくもり」週刊金曜日、6月26日号)。

「…かつてオルテガが『大衆の反逆』において、『文明』とはなによりもまず、『共同生活の意思』だと定義した。そして、人々が『たがいに分離し、敵意を持つ集団がはびこる』さまのことを『野蛮』と呼んだ」「『文明』とは、『敵と共に生き、反対者とともに統治する』ことだ。美しいことだ」と書いています。

今、この国では「異質な他者との共生」の逆行・否定がまことしやかに法制・強制されようとしています。

それらのことのひとつが「皇室典範改正案」だったり「国旗損壊罪法案」だったりします。「跡継ぎ」が心もとない状況で、その層を少しでも増やすことが目標なのですが、その場合でも「男系男子」は絶対条件になっています。「今ごろ何を」のはずなのですが、この制度では絶

対条件で、男系男子以外「異質」なのです。そもそもが「異質な他者との共生」はあり得ない制度とも言えます。しかしこの制度は「現実には存在しなかった幻想の『神話的過去』を捏造し、正当化するため、ファシズムは歴史を抹消し、単一の視点、単純な物語を採用する」ものであって、それは「象徴」くらいで唯一許される制度であり、そうであって初めて残されもしたし、「男系男子」など、本来はあり得ない制度なのです。

もう一つが(他にもありますが)、「国旗損壊罪法案」です。成立させようとしている人たちが「法案成立によって、国旗を大切にする気持ちや愛国心が『醸成される』」などと言っていますが、愛国心などと言うものは、「醸成される」ものではなく、全くその逆であっても、当然あり得る国家の歩みを、およそ 80, 90 年前に国家は強制したりしました。その時の印がこの国の「国旗」だったはずです。

その時の「国家」への明確な異議を寺山修司は歌っています。

マッチ擦るつかの間海に霧ふかし

実を捨つるほどの祖国はありや

そもそもが「寄留の外国人」を排除することを、明確に主張する政党があつて、それに同調する形での政策まで打ち出し、「異なった他者との共生」を嫌悪し「愛国心が醸成される」というのですから「野蛮」なのです。

イエスとは言えば、「…イエスは社会の周辺者、追放された者、宗教的に排除

された者、差別されている者、下層の者と付き合い、彼らと親しくなった。イエスは彼らを単純に受け入れた。彼はあらゆる人間に向って愛が開かれていることを説教するだけでなく、それを実践する」のですから、「法案成立によって、国旗を大切にすることが愛国心が『醸成される』」などと主張する人たちにとっては『野蛮』と言えなくはありません。

ということで、そんなイエスの「野蛮」は、ハンス・キュンクによれば、「この若い男は何をわがものとしているのか？ただでさえ前代未聞の彼の要求が頂点に達する時、それは、憤慨や激しい抵抗を呼び覚まさずにはおかない。それは罪を赦すことができるという主張である。彼が過ちを暴いて不正に定めたすべての者たちとの衝突——生と死を賭けた衝突は不可避となった」という、もう一つの「野蛮」が始まることを意味します。

ということで、守るに値するのは、「異質な他者との共生」なのです。

祈ります。

(菅澤 邦明)



ヒマワリ

オランダの学校から見たもの

前は「これからの学校を考えるために日本の教育史をふりかえる」という題で原稿を書かせていただいた。というのも、私自身が学校現場で働く中で、従来の学校制度にどこか限界が来ているのではないかと感じているからである。

その思いが強くなったのは、コロナ禍であった。小学校という場所は、本来、人と人との関わり合いながら学ぶ場である。ところが感染対策の名のもとに、「距離を取りなさい」「話してはいけません」「触れてはいけません」と、多くの制約が課されるようになった。もちろん必要な対応ではあった。しかし一方で、子どもたちの生き生きとした学びや関わりが失われていく様子を見ながら、私は学校という仕組みそのものに大きな閉塞感を覚えるようになった。

この行き詰まりを打開するヒントを探したい。そんな思いから、コロナ禍が落ち着いた 2022 年 9 月、私はオランダの小学校を視察する機会を得た。

なぜオランダなのか

オランダに関心をもった理由は二つある。

一つは、「子どもの幸福度」である。ユニセフが実施した子どもの幸福度調査では、オランダは常に上位に位置している。一方、日本は身体的健康の項目では高い評価を得るものの、精神的幸福感については低い順位にとどまっている。

「子どもたちが幸せだと感じる学校や社

会とはどのようなものなのだろうか」。それを自分の目で確かめてみたいと思った。

もう一つは、「イエナプラン教育」である。イエナプランはドイツの教育学者ペーター・ペーターセンによって提唱され、その後オランダで発展した教育実践である。学年ごとに子どもを分けるのではなく異年齢のグループで学び、対話、遊び、学習、行事という四つの活動をバランスよく繰り返しながら成長していく。

そこには、「みんな同じでなければならない」という発想はない。一人ひとりの違いを認めながら、対話と協働を通してともに育っていく。その教育哲学に私は以前から大きな魅力を感じていた。

オランダの学校で、それがどのように実現されているのかを見てみたかったのである。

心地よい学びの空間

実際に学校を訪れてまず驚いたのは、異学年で学ぶ環境であった。

日本の学校では、同じ年齢の子どもたちが同じ教室で学ぶのが当たり前である。しかしオランダでは、年上の子と年下の子が自然に混ざり合って生活していた。すると、「教える子」と「教えられる子」という役割が固定されない。同じ子どもでも、ある場面では教わる立場になり、別の場面では誰かを支える立場になる。お互いが学び合う関係が自然に生まれていた。

また、日本のような一斉授業はほとん

ど見られなかった。何を、どれだけ、どのように学ぶのか。その計画を子ども自身が立てているのである。毎週、自分で時間割を作り、得意な教科は短く、苦手な教科は長めに取り組む。学びの主体は教師ではなく、子ども自身であった。

では教師は何をしているのか。教師の役割は、子どもの学びを管理することではなく支えることである。時間割づくりを手伝い、学習状況を見守り、必要に応じて助言を与える。また、理解が難しい子どもたちを集めて個別に説明する場面も見られた。決して「教えない教育」ではない。必要なときに必要な支援を行いながら、子どもが自立した学び手になることを目指しているのである。

印象的だったのは、その教室の雰囲気であった。同じ空間に、それぞれ違う学びをしている子どもたちがいる。それにもかかわらず騒がしさはなく、穏やかで落ち着いた空気が流れていた。そこには、お互いの自由を認め合う文化があった。自分の学ぶ自由を大切にすることこそ、相手の学ぶ自由も尊重する。子どもたちは必要に応じて助け合い、声を掛け合いながら学んでいた。「自由」と「協力」は対立するものではなく、むしろ支え合うものなのだということを、その姿から教えられた気がした。

そして何より心に残ったのは、大人も子どもも実に自然体であったことである。日本の学校では、とすると「教師らしく」「生徒らしく」振る舞うことが求められる。しかしオランダの学校では、一

人ひとりが一人の人間としてそこに存在していた。学校だけが特別な空間として切り離されているのではなく、人々の日常の延長線上に学校がある。そんな印象を受けた。

海外の真似をするのではなく

もちろん、オランダの教育をそのまま日本に持ち込めばうまくいくとは思わない。教育制度も文化も歴史も異なる。オランダの学校は、長い時間をかけて育まれてきた社会的な土壌の上に成り立っているからである。

しかし、だからといって日本には別の道しかないというわけでもない。実は、日本にもかつて似たような学びの姿があった。江戸時代の寺子屋である。寺子屋には年齢の異なる子どもたちが集まり、それぞれの進度に応じて学んでいた。学びは一律ではなく、一人ひとりの生活や将来と結び付いていたのである。そう考えると、私たちが目指すべきことは、海外の教育を真似することではないのかもしれない。むしろ、教育の原点に立ち返り、「学校は何のためにあるのか」「誰のための教育なのか」を問い直すことである。その問いに真剣に向き合うならば、学校の姿は少しずつ変わっていくはずである。そしてその変化は、制度のために子どもを合わせるのではなく、子どものために制度を考え直すことから始まるのではないだろうか。

(石田 航平)

今月の畑だより

園芸サークルの畑での活動は、この暑さですから、なかなか大変です。7月14日（火）には、「熱中症対策」で、発泡スチロールの中に、タオルを凍らせたものを用意させてもらったりしました。

一方、どんなに暑くても、野菜、雑草は、少しもめげることなく、その命の営みを繰り返しています。一般には、普通に雑草をしているエノコログサも、伏原町の畑では1mを超える位に伸びて、種を貯めていたりします。通路のヌスビトハギは、その道を防ぐ位伸びています。

少し遅くなったサツマイモは、やっと、そしてどんどんつるを広げ始めています。「野生化」したヒマワリは、空に向かって伸びる一方で、どんどん枝を伸ばし、その枝でも、花を咲かせ始めています。そして、青紫蘇（大葉）は、畑のあちこちで種を落として育ち、葉っぱを広げています。ちょっとちぎってみると、あの青紫蘇の良い香りに嬉しくなります。

4月に、2本植えたスイカは、それぞれに身をつけ、14日の園芸サークルの作業で、その半分をほんの少しずつ味わっていただきましたが、「本物」のスイカの味でした。（間違いなく！本物！のスイカですから、味もちろん本物です！）

アーチを作って、アーチでつるを伸ばしたカボチャですが、そのアーチが耐えられない位、大きく重さの実をつけてい

ます。「予定」では、100個ぐらいは実をつけるはずでしたが、受粉がうまくいかなかったりして、全体では20個位になっています。（当初、雄花だけだったのは、栄養過多とも言われていましたが…）

5本ほどホームセンターの苗を植えたゴーヤも、ずっと雌花だけでしたが、

「枝」を伸ばし始めて、実がつき始めると、西村班長（西村香苗さん）の言葉通り、どんどん身をつけ始めています。

そして初挑戦のとうもろこしは、少しずつ芽を出して、スリムな体を少しずつ伸ばしています。

いずれにせよ、畑と言うものの、ほぼすべては、雑草との格闘ですが、園芸サークルの老若男女は頑張っています。



晴れのち福ちゃん さちあ 構成

『はじめてのおつかい』作者

2026
年7月1日(予定)
肺炎のため



はやしあきこ
林 明子さん死去
(絵本作家)

晴れのち福ちゃん さちあ 画

M C I (軽度認知障害)



M C I (健忘型) の
初期症状 —



人やものの名前が
思い出さなくらい

何度も同じことを
言ってしまう



前日の昼食、夕食の
内容が思い出せない。

約束を忘れて
しまうことが増える

福音館書店によると、
これまで手始めに
作品の累計発行部数は
2千万部以上となる
(2026.7/9 朝日新聞)



エーザイク、K『見のたそなひで、MCI』(2025.1)引用。

あんなこと こんなこと

2026年6月7日(日)

第29回 統一マダン神戸

キャナルタウン広場(JR 兵庫駅前)

雨模様にも負けない明るさで、子どもたちは元気いっぱいにエイサーを披露し、力強い踊りで会場を盛り上げてくれました。



2026年6月26日(金)18時～20時

関西神学塾

三浦耕吉郎先生「グループホームでの自然死の看取りに、訪問看護師が果たした重要な役割とは？」

訪問看護師の仕事について、これまで十分に理解できていなかった私たちにも、とても分かりやすく説明くださり、ケアホーム、家族、そして訪問看護師がそれぞれどのような役割を担い、どのように連携して利用者を支えていくのかを、具体的な事例を交えながら学ぶことが出来ました。



2026年6月30日(火)

園庭 排水管改修工事

教会の排水管は、約30年前の兵庫県南部大地震の影響により、配管の「つなぎ」の部分の緩みが生じ、そこから木の根っこが入り込んで「つまる」という状態を繰り返してきました。その都度対応してきましたが、根本的な解決のため、このたび大規模な改修工事を行うことになりました。



2026年7月4日(土)17時30分～20時

ほしまつり 2026

当日は、あいにくの雨模様となりましたが、スタッフの皆さんが準備の段階から雨の中で力を合わせてくださり、無事に開催することができました。おかげさまで、昨年とほぼ同じくらいたくさんの方々に足を運んでいただき、会場には笑顔があふれ、地域の皆さまとも楽しいひとときを過ごすことができました。



福島東電の事故 そこから考える

小豆川勝見さんは測り続けています

先月、二本松の有機農家菅野正寿さんを紹介しました。農家は日々、放射性物質と向き合うことになりました。その放射性物質とは何か？ そのあたりをおさらいしてみます。

今、福島で気をつけなくてはいけない残存する放射性物質はセシウム 137 です。放出される放射線は B 線です。B 線とはマイナスの電荷をもった電子線です。細胞に対して電離作用があるわけです。

セシウム 137 の半減期は約 30 年。元の環境に戻るには 330 年です。少なくとも福島県民はあと一世紀は放射能を気にして暮らす必要があります。

この放射線測定について考えてみましょう。

5 月 16 日福島市で今中哲二さんと小豆川勝見（しょうずかわかつみ）さんの講演会をお手伝いしました。今中さんは、長年京都大学原子炉実験所（現・複合原子力科学実験所）に席を置いていました。原発のリスクを告発し続けた異色の科学者です。小豆川さんは、東京大学に所属する放射能測定の専門家です。原発事故後、被災地を中心に環境中の線量を測定しています。小学校中学校を回り、子どもたちに測定についてわかりやすく授業を続けています。

今号から小豆川さんの講演を掲載します。

小豆川勝見さん

放射能は、見えません、においもありません。測定するしかないのです。私は被災地を中心に測定を続けてきました。数値を知ることで議論ができるからです。

私、そんなに有名でないので簡単に自己紹介をさせていただきます。普段、タイベックスーツを着て 2011 年 4 月から帰還困難区域で測定路続けています。放射線は分かりにくいので、小学生中学生高校生から大学生大学院生までわかりやすく話してきました。

それは次の世代に放射能を知ってほしいからです。

私はもともと東海村で放射線測ることを研究テーマにしていました。そのときに原子炉ってこんなに安全装置があって、絶対壊れるものではないだと思っていました。

ところが 2011 年 3 月にそれは間違いだと気づいて、それ以来、原子炉の外にどれくらい放射性物質が飛び散ったかを測って皆さんに伝えていくのが大切ではないかと考えるようになりました。それ以来、帰還困難区域んの中を測っています。

やっぱりシーベルト、ベクレルが伝わらないんですね。だから私は、教育の分野で子ども向けの授業も含めて、15500 くらいの子どもたち話してきました。この活動の中から将来、一人でも一緒に測ってくれる子が出てきたら、うれしいです。

放射線というものは、本来、とっても便利なものです。私からしたら、不思議を解き明かしてくれるロマンのあるものでした。

その一例をお話します。イタリアのとある大聖堂にキリストが処刑されたときに槍で刺されて亡くなったときに死体を布でくるんでいた布、「トリノの聖骸布」というらしいですが、クリスチャンの方にしたら、とても神聖なものです。ところが研究者というものは、本当に空気が読めないですから、こういうのが出てきたら、「わあ、分析したいな」となります。

ある研究者がこの聖骸布、端っこの方が少し切りとって2千年前のモノか調べました。わずかに含まれている放射性物質を測定することで、この布は何年前にできたものか、明らかにできるのです。怒ったのは宗教関係者です。「神聖なものをぶちぶち切って、なんていう結果を出すんだ」となります。今でもキリスト教関係者と科学者の間で論争が続いています。

放射線というものは、人間の管理下に置いておく限り、とても便利なものです。骨が折れていることが分かったり、時には聖骸布のようにロマンを追うことができます。ところが人間の管理下でない放射性物質は、とても厄介です。

私がこれまでやってきた中でやってきたことを紹介します。福島第一原発からいろんな放射性物質が出ています。私が一番、注目していたのは地下水の汚染状

況です。地下水にも出ているんじゃないかと7年くらい、継続して測りました。イチエフの大熊町側の地下水を調べてみました。こちらからもトリチウムが出ていました。詳しく調べてみたら、明らかに福島第一原発から出たトリチウムでした。幸いい濃度は規制値に達していませんでした。そこは法律違反ではないということでもよかったんですが、トリチウムが出るということは、ほかの放射性物質が流れてくる可能性はあるということです。だから海だけでなく、陸側も監視対象にしたらどうですか？ というような啓蒙を続けています。

他にもこんなこともやっていました。2020年に開催予定だった東京オリンピック、実際は2021年に実施されました。そのとき、福島第一原発事故があったのに日本でオリンピックをやるの？ 大丈夫なのという揶揄する声が世界中で上がりました。

そのとき、僕は疑問に思ったんです。こんなに一杯測っているのにこんなにいろいろ風刺画があがってくるんだろう？

それで聞いてみたんです。

「だって僕ら調べられないもん」

「えっ。調べられないってどういうこと？」

「じゃ、福島市の数値ってどうやってみるの？」

「えっ、そんなのいくらでもはかっているでしょ」、と思って自分で調べてみました。

福島県は、確かにあづま球場も測って

はいます。じゃどうやって公表しているかと言えば、球場の入り口の掲示板に紙を貼ってある。そりゃ、外国の人からしたらわからない。

せっかく測ったのなら、いろんな方に見てもらって検証してもらおう。そこから初めて議論ができるんじゃないかな、というふうに思っています。放射線をしつかり測って、その数値をいろんな人に見てもらって、議論する。それが測定の仕事です。

よく放射性物質と言いますね。物質というからには、見えると思いますよね。でも見えない、においもしない、味もしない。でも物質なんです。本来は見えるはずなんです。

グラム単位でみればわかりやすいです。

グラム単位とは、原子番号に g (グラム) を付けたものです。つまり原子が 6.02×10^{23} 乗個 (1 モル) あるものです。グラム単位でセシウムを集めてみました。

バカ正直にセシウム 137 を 1 モル、137 グラム集めてみました。そうするとどれくらいの放射能になるかということと 440 兆ベクレルに相当します。これを持っていたら人間は 10 秒以内に死にます。

そうなんです。放射性物質は目に見えるんですけど、目に見えるくらい持っていたら、死んじゃいます。

仮に 1 ベクレルだとしましょう。1 ベクレルだとどれくらいの重さかというと、 0.0000000000000031 グラムです。ゼロが

いっぱい並んでいます。1 ベクレルという物体はあるんですが、これだけゼロが並んでいると肉眼では、絶対見えません。

では、フレコンバックに入れる指定廃棄物、あれが 8000 ベクレル。あれで 0.00000000024 グラムです。どんなに目のいい人でもまだ見つけれません。私の研究室にある一番高線量のセシウム、これが 6 千万ベクレルあります。これでも 0.000019 グラムです。多分、これくらいだと、目のいい人ならぎりぎり見つけれられるはずです。でもこれは、見続けると目の水晶体が被曝してよくないと思います。

もっと簡単に言います。大熊町の仮置き場にありました。そのフレコンバックを正直に一つ一つ測ってどれくらいのセシウムがあるか、計算しました。塩一つ分くらいです。これだけでも取り除かなければならないほど、放射性物質はパワーを持っています。

この事故でどれくらいの放射性物質が環境中に飛び散ってしまったのか？これを正確に計測はできません。どうしてもシミュレーションになってしまいます。

セシウム 137 については、放出量合計は 1.5×10^{16} 乗ベクレル。約 4.7 キログラムが環境中に放出していることになります。4.7 キログラムが風に乗ってほわ〜と環境中に飛び散ってしまった。先ほども言いましたように 8 割くらいが海に流れました。つまり 2 割くらいが陸地に落ちています。ということは、陸地に 1 キログラム程度が降っています。あま

り有名でないかもしれませんが、ストロンチウムという物質もあります。これは骨にたまりやすいとされる物質です。それが 27 グラムくらい、環境中に放出されています。これも 2 割が陸地に落ちています。だから 4 グラムくらいですね。これを集めるために除染が行われているんです。そうすると如何に放射性物質のパワーがすごいか、わかんと思います。

数キログラムでこれなら、デブリを取り出すのは、もっと大変だと思っていたら、正解です。すごく大変なんです。

廃炉、全然進んでいないと思われるかもしれません。そりゃそうです。敵が強すぎるからです。研究者の皆さん、頑張っていますが、なかなか、いい方法を思いつかない。それだけ大変なものなのです。

わたしたち、研究者は、日ごろ、ベクレルという単位をよく使います。今、わかりやすいように重さ、グラムでも表しました。ベクレルとグラムは、等価できます。ここでは、トリチウムの例をあげてみようと思います。

トリチウムは、海洋放出が始まって、今も少しずつ海に流していますね。もちろんそれ以外の放射性物質もあります。あのタンクの中のトリチウムを全部、足すと 15 グラムくらいです。それを放射能に置き換えると 780 兆ベクレルです。

これをもし「15 グラムくらい」と言ってしまうと、少ない印象を与えてしまいます。一方、780 兆ベクレルもと言っ

てしまえば、すごく多い印象を与えてしまうと思います。このように同じことを言っているのですが、伝え方によって、単位によって、受けとめかた、話し手の意図もあるかもしれません。
(つづく)

(四方 哲)

※ロシナンテ社では、福島は今、原発問題について、PDF 版「ロシナンテ通信」をインターネット配信しています。

年間購読代 3600 円 お申込みをよろしくお願いたします。shikatasatoshi@gmail.com



ブルーベリー

～♪ぼくのみる空と きみのみる空は
つながっているから～

名護七曲（158）
「雲行き」

6月から7月にかけて、今のところ台風が2つ沖縄島地方に大接近いたしました。6号が6/1（月）で、7号が6/26（金）でありました。幸い何れも名護地方では大きな被害はありませんでしたが、中部の沖縄市では6号の時に胡屋十字路のガジュマルの木が倒れてしまったとのことでした。倒れたガジュマルの木は一旦別の場所で養生して、元気になったらまた元の胡屋十字路のところに戻って来るそうです▼名護伝道所も台風6号で外壁のコンクリートが一部剥がれ落ちてしまいましたので、シーズンが終わったら修繕しようと思います。左官はあまりやったことがないので上手に仕上がるかどうか分かりませんが、とりあえず剥き出しになっている鉄筋を隠せればいいかなと思ってます。垂直面にどうやって型枠を固定するかで悩んでいます▼今週は台風9号が八重山地方に向けて接近しつつあります。比較的大型の台風みたいなので、島々の皆様に大きな被害がでないことを願うばかりです。台風はもちろんこれから本格シーズンでありますので、頻繁に祈りを重ねなければならないことになるとは思うのですが、自然を相手に人が出来るのはそれぐらいのことかなとも思います。あと、畑の様子を見に行かない

ことも大事ですかね。心配だとは思いますが、様子を見に行ったところでどうすることも出来ません。妙な勇気を出さないことが何より肝心です▼ちなみに沖縄地方の住宅は、そもそも台風が来ることを前提とした造りになっているのか、いわゆる三角お屋根のお家よりも、鉄筋コンクリートの四角いお家の方が多いように思います。三角屋根のお屋敷ももちろんありますが、大抵は平屋で、屋根の角度も浅く、それも2面ではなく4面仕様。軒も短めで、明らかに台風を想定した仕様であることが分かります▼自然は地域によっても様々ですから、それに合わせた対策もこれまた様々あるかと思います。それも一つではありませんので、どれを優先するか、考えたらとても難しいですね。台風・大雨・洪水・地震・火山・津波・火災・液状化・豪雪・塩害・太陽フレア・隕石...全てを想定し完璧に備えることはなかなか難しいではあるのですけれども、名護伝道所も可能な限りしっかり備えてまいりたいと思います。近頃はミサイルの心配までしないといけないとか、なんとも再びおかしい時代になりつつあります。

（羽柴 禎）

稀代の落語家

桂枝雀



レコードで聴く 落語会

第3回 演目

てんじんやき

こうしやく

①「天神山」②「くっしゃみ講釈」

中入り ジャズなどの素敵な音楽を聴きながら

日時

9月11日(金)
14時～15時30分



場所

アートガレーヂ

参加費

無料

〒662-0834
西宮市南昭和町 10-19



先着20名様です。

お席に限りがありますので、ご希望の方はお早めにご予約ください。ご予約の方を優先させていただきます。



西宮公同教会
地域共同・共生支援活動・事業
アートガレーヂ
TEL:0798-67-4691



つとかいわ・あれこれ

以下、「ほしまつり 2026」で配布された文書より

「ほしまつり」といえば、大きな竹（約 15m）が立って、たくさんの願いを込めた、たくさんの短冊が紐で結ばれます。

そして、津門川川沿いには、10 本あまりの笹竹が立ち、そこにも、たくさんの願いを込めた、たくさんの短冊が紐で結ばれます。

そんな、紐で結ばれる、たくさんの短冊の中に、3 つの願いが書かれたものもあります。

生きてこそ 笑うな平和 星に聞け
かざす一輪 おくげの花の

生きること 笑うな平和 星の問う
かざす一輪 ひまわりの花

生きてあり 笑うな平和 星嘆く
かざす一輪 あじさいの花

そんな 3 つの願いの、3 つの花は、伏原町の幼稚園の畑で咲いています。「今年も咲いてくれた！」花です。どんなに、年が巡っても、自然は静かに、しかし確実にその時を告げてくれます。

そして、短冊に書かれた、もう一つの願いが、「笑うな平和」です。

① エイサー隊

エイサー隊は、教会学校の沖縄キャンプで出会った人たちの「日々の平和を願って舞っている」そんな姿が心に残って始まって、西宮公同幼稚園のエイサー、そして教会学校のエイサー隊になりました。

② 大道芸

今年も、大道芸は、「沢入国際サーカス学校」を主催する理事の西田敬一さんの紹介で、来ていただくことになりました。大道芸が、プロのパフォーマー、アーティスト、国内外のサーカスやストリートなどで芸を披露し、活躍するための、そしてそれを見た人たちが、喜び、何より大切なのは、そこに「平穏な日々」が繰り広げられていることです。

③ たべる

「ほしまつり」（こうどうまつり）で、「たべる」食材は、今年も、伏原町の幼稚園の畑（および、淡路島平安荘キャンプ場）で育った「無農薬・有機栽培」の野菜たちです。いずれも、誰かが少しずつ汗を流して育ててきました。

④ あそび

マイケル・ジャクソンの「子どもたちが、最も

深い知恵に到達していて、そこから創造性を教えてくれる」という言葉を、そのままに生きているのが、「あそぶ子どもたち」で、「あそぶ」ことを何よりも大切にしてきた西宮公同幼稚園の歩み、今も、絶えることなく繰り広げられている教会学校の子どもの生活であり「あそび」です。そんな「あそび」によって、子どもたちは、知恵と創造性を育てていきます。

⑤ 打ち上げ花火

「ほしまつり 2025」で復活した花火が、「ほしまつり 2026」でも、その最後に、にじきたの夜に打ち上げられます。「ほしまつり 2026」でも、そのぎりぎりに「挑戦」します。何と言っても、花火の「火」は、同じ火でも、平和を喜ぶ声を呼び起こす火なのです。

(K)

最近の熊出没ニュースにすっかり怖気づいている私。テレビで流れる熊ニュース。アーバンベア（*1）とか言われて、街中を走る様子などを毎日見せつけられると、明日にでも自分も遭遇するんじゃないかと怯えています。

で、先日とうとう、夢の中で熊と出会ってしまった、黒々と濡れた鼻を見せて迫る熊に、「どうしよう！」と、縮こまったところで目が覚めたけれど、胸のドキドキは収まらず。

熊がいろんな形でたくさんの絵本に登場するのは、比較的人の近くに生活し、共存もしていた存在だからなのかなと思ったりする。雪にひれ伏して、小十郎を弔う「なめとこ山」の熊たちには何か崇高なものを感じ、心が揺さぶられる。

先日、娘がゴキブリが出たので、AI に退治の方法を相談したと言うので、「アホか！ そんなのスリッパ片方あれば、イチコロよ！」と、およそ崇高とは程遠い返事をした母でした。

が、それにしてもそんなことまで AI に相談するご時世になったのか…。

（*1）アーバンベア…山ではなく人里や市街地に居つき、人間の生活圏に繰り返し出没するクマ（都市型クマ）

(S)

前は頭痛のお話でしたが、今回は大腸のお話です。1 年ぶりの胃カメラは麻酔のおかげで無事終了。結果も異常なしでホッとしたのも束の間、「では、次は大腸カメラですね」と先生のひと言。3 日前からの薬に前日の食事制限と、準備の方が大仕事。検査は、15～30 分で終わるそうですが、初めての私は、今からビビっています。何事も、経験ですね。

(K)